

中華春節燈籠祭・東京燈会

広告

東京で初の本格的な春節燈会（東京燈会） 駒沢公園に巨大ランタンや各地の文化が集結

相互理解こそが友好の始まり

中華春節燈籠祭・東京燈会実行委員会は2月16日と17日の両日、東京・駒沢公園の駒沢オリンピック公園総合運動場中央広場で、駐日中国大使館、中国海外交流協会、中国駐東京観光代表処、外務省、世田谷区、世田谷区教育委員

会、東京商工会議所などの後援協力により、「中華春節燈籠祭・東京燈会」を開催します。

中国では、日本の旧正月である春節から数えて15日目の元宵節に燈籠を灯す習慣があり、年間で最も盛大な燈会（ラ

前の週末となる2月16日と17日に東京の駒沢公園にやります。

家族で祝う春節でも、元宵節は親族だけでなく、大切な人や友人などより広い範囲の仲間と二緒に二年の吉祥を願うものです。

駒沢公園で開催される「中華春節燈籠祭・東京燈会」は、中華春節の時期に会場全体をランタンで飾り付けるとともに、56の民族から構成される広大な中国を7つのコーナーに分けて、実際に中国を訪れたような感覚で中国文化を体験できるブースも展開されます。

中国駐東京観光代表処の王偉首席代表は、「日本では中国も自国と同じように単一民族の国と誤解している人も少なくないが、中国は多くの民族からなる国であり、それぞれの地域には多種多様な特徴や伝統文化が存在する。春節の機会に燈会の本場とも言える四川省の自貢市からホンモノの燈籠が持ち込まれ、現地と同じ雰囲気が出される中で、多くの皆さん

会に燈会の

八大料理を通じて地域を知る

東京で初めて開催される本格的な春節燈会となる「中華春節燈籠祭・東京燈会」では、中国を「東北」「華北」「華東」「華中」「華南」「西北」「西南」という7つのエリアに分けて各エリア毎にゾーンを設定し、観光情報の発信をはじめ、伝統工芸製作の実演や食材・漢方薬・伝統菓子・ファッション・雑貨などを紹介するほか、エリア別のミニステージでは各エリアの風景写真を背景に様々な地域アトラク



駒沢オリンピック公園総合運動場中央広場に本場の「中華春節燈籠祭」が出現します（イメージ）



「東京燈会」の開催を告知するリーフレット



前夜祭では「四海同春歌舞団」による華麗なパフォーマンスも（イメージ）

シヨンも上演される予定です。

さらに、56もの民族から構成される「中華人民共和国」を料理によって体感してもらおうと、食文化のゾーンでは、安徽・湖南・四川・広東・山東・江蘇・浙江・福建の中国8大料理について、特徴的な屋台を設置。中国料理人の有志によって実現した食文化ゾーンの屋台では、各地域の特徴を学んだ世田谷区の小中学生と華僑華人の子どもたちが、売り子として一緒に料理を販売する時間も設定されています。

王首席代表は、「中国の料理は地域によって様々だが、今回のイベントでは、中国の様々な地域の味付けや特徴のある料理を楽しむながら、それぞれの料理を育んだ各地域における独自の風土や歴史、文化などにも思いを馳せていただければ」と期待を示しています。



本場・四川省自贡市での「自贡燈会」の様子

日中児童交流事業イベントも

日本と中国の間で合意された観光交流の拡大を目指す覚書では、地方間交流と青少年交流、文化スポーツ交流を「三つの架け橋」として取り組みを強化することが確認されており、王首席代表は、「中華春節燈籠祭・東京燈会」もこの「三つの架け橋」を具現化するものと語り、その意義を強調。特に、今回のイベントでは、「日中児童交流事業」お友達プロジェクト」として、世田谷区教育委員会と日本中華教育協会によって選ばれた学校同士によるコラボレーション企画や一般参加の子ども向けイベントも計画されており、特に、青少年交流を象徴する試みとして注目されています。

交流イベントとしては、日中の中学生



「西武園ゆうえんち」で開催されているイベント「ホワイトランタジア」にも、四川省の燈籠メーカーが制作したランタンオブジェが登場

によるチームが出展企業ブースで職業体験をする「春節祭職業体験」や日中の小学生が両国の伝統工芸づくりや伝統的な遊びを体験する「日中伝統文化体験」のほか、中国の伝統的なランタンに子供達が自由に絵を描き、完成したランタンを会場に「ランタンウォール」として飾ります。また、会場内に設定される7つのゾーンを回ってポイントを集める「スタンラリー」なども予定されています。

世田谷区立の桜町小学校・九品仏小学校・瀬田小学校・烏山中学校・芦花中学校・上祖師谷中学校と横浜山手中華学校・東京同源中文学校・東京華楽坊芸術学校・東京陸新中文学校が参加する「日中児童交流事業」は、2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピックに向けて東京都が推薦する「お友達プロジェクト」の環となるイベントとしても位置付けられています。

中国を発信する画期的な試み

駒沢オリンピック公園総合運動場で「東京燈会」が開催される前日の2月15日には、東京・有楽町のみみうりホールで前夜祭も開催されます。

前夜祭では、中国海外交流協会によ



日本に住む華僑華人の子ども達も「東京燈会」で飾られるランタンの絵付けに参加しています

て招聘される「四海同春歌舞団」が登場し、東京で初めて華僑華人によって開催される大規模な文化イベントに花を添える予定です。

同歌舞団は、中国でも人気の高い国民的な歌手やダンサーなどを中心に構成されており、伝統舞踊や地方劇、中国民謡などの演目が披露されることになっています。伝統芸術を受け継いで後世に伝えていくことをミッションの一つとしている歌舞団は、世界各国でも積極的に公演を行い、数々の受賞歴もあることから、そのレベルの高いパフォーマンスに期待が高まっています。

王首席代表は、「青少年交流の環となる独自の交流事業など、未来の良好な日中関係を見据えた様々なイベントが実施される『東京燈会』は、春節という機会に東京で大々的に中国の文化を発信する画期的な試みであり、日本の旅行業界の皆さんにも、是非、足を運んでいただきたい」と呼びかけています。

中国駐東京観光代表処